

# 第24回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成24年1月

応募者名:北海道 上川総合振興局

旭川建設管理部

事業の名称:旭川圏都市計画道路事業

3・3・15号永隆橋通

実施都市名:旭川市

## 事業目的

当路線は神楽地区の国道237号を起点に、旭川市中心市街地を經由し、新旭川駅に至る骨格幹線街路です。

当路線が横断する一級河川忠別川には橋梁がなかったことから、河川の南北で市街地が分断されている状況でした。新永隆橋の新設や、鉄道高架事業などとの連携により、忠別川による市街地の分断を解消し、旭川駅周辺中心市街地の一体的な発展への支援が図られます。

橋梁名については公募により、河川部に架かる橋は旭川市ゆかりの作家 三浦綾子氏の作品から「氷点橋(ひょうてんばし)」、公園部に架かる橋は関連事業の名称から「北彩都橋(きたさいとばし)」と命名されました。

## 事業概要

事業名称:旭川圏都市計画道路事業 3・3・15号永隆橋通

路線名:旭川圏都市計画道路 3・3・15号 永隆橋通

事業箇所:旭川市 神楽4条9丁目～宮下通10丁目

事業延長:430m

幅員:28.5m～49.5m

事業費:3,650百万円

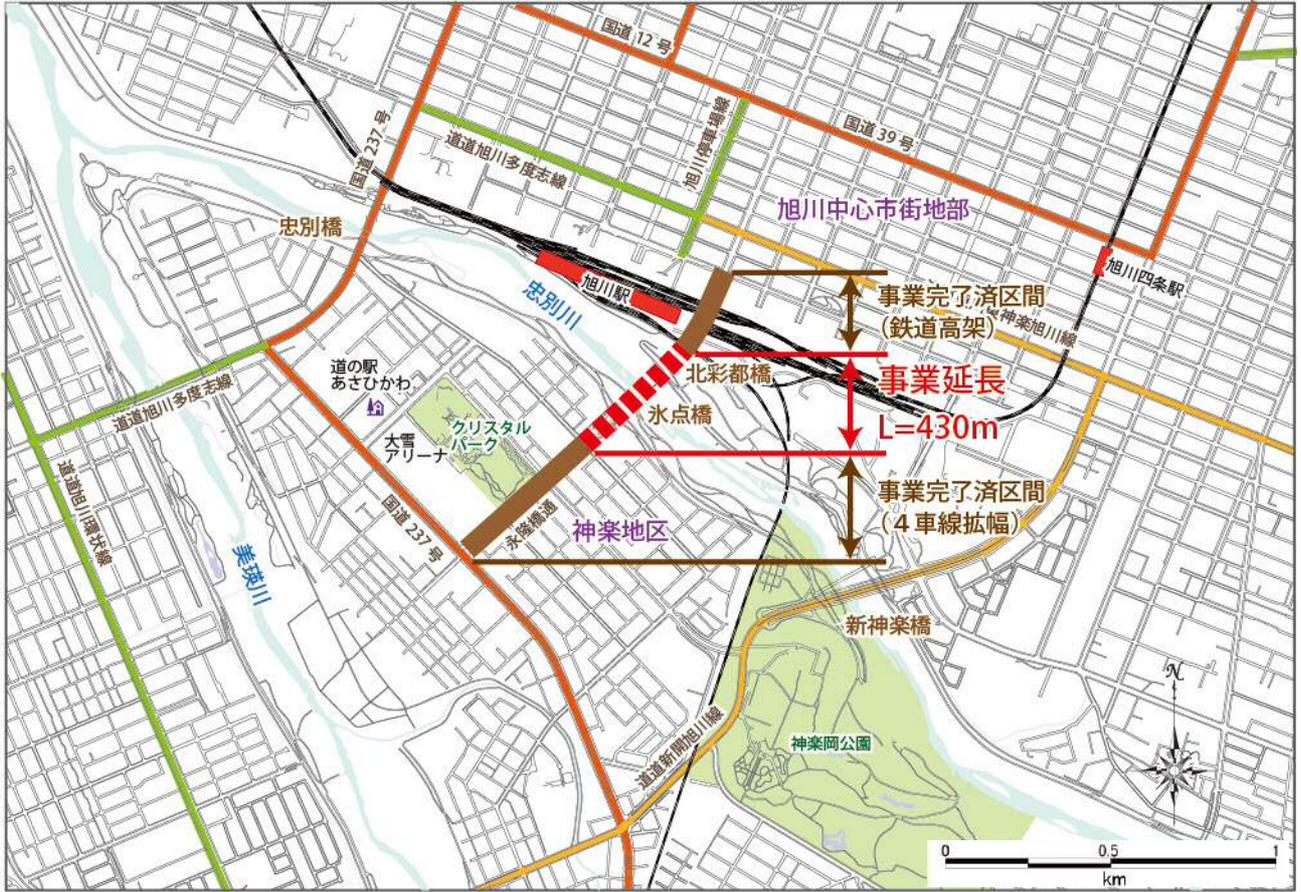
事業実施期間:平成15年～平成22年(平成23年4月1日 橋梁部開通)

本事業では、永隆橋通整備の一環として、忠別川を跨ぐ氷点橋、公園部の北彩都橋の整備を行っています。これにより、事前に整備が行われていた神楽地区の4車線化整備、及びJR旭川駅鉄道高架事業とあわせ、永隆橋通の整備が完了したことになります。

整備にあたっては、景観検討を本事業の上位計画となる「北彩都あさひかわ」まちづくり推進会議にて行い、「都市と川との一体性強化」「自然豊かな風景との調和」をコンセプトとしたデザインの検討を行いました。また、平成25年に整備完了予定であるクリスタル橋と姉妹橋であることを印象付けるため、構造形式はPC橋を採用しました。横断する忠別川の保全の一環としては霞堤遊水池を活用した池を創出し、湿性植物の生息空間を確保しています。

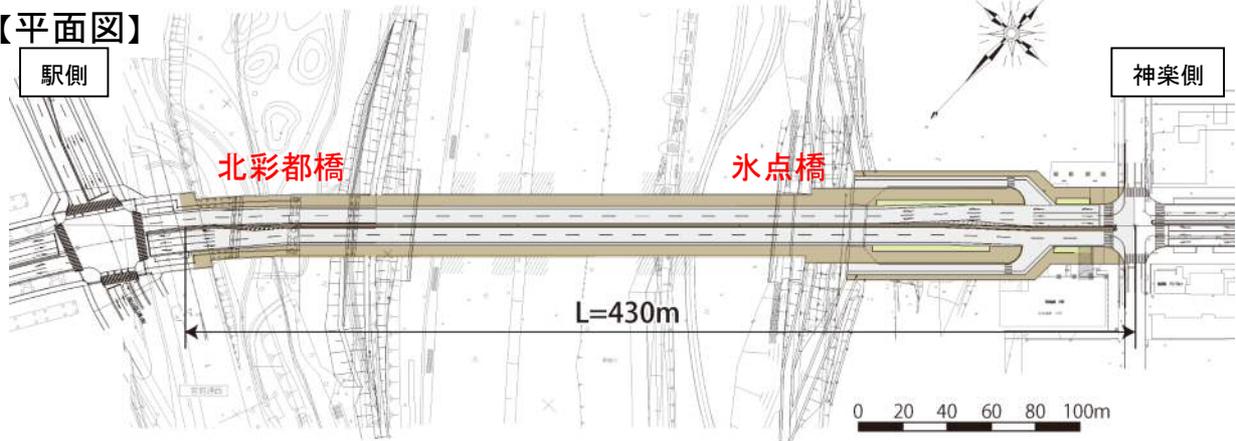
本事業により、永隆橋通と平行する国道237号(忠別橋)、道道新開旭川線(新神楽橋)の負担を軽減し、JR旭川駅高架事業とあわせ旭川市中心部と神楽地区とのアクセス向上による賑わいの創出、忠別川の自然環境と一体化した緑ある都心部形成を図ります。

# 事業位置図

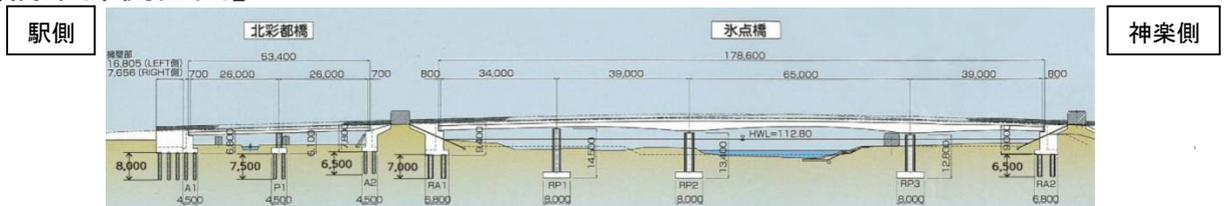


## 全体図(平面図・側面図・横断面図)

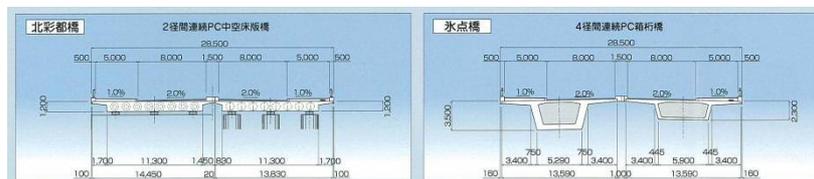
【平面図】



【橋梁部側面図】



【橋梁部横断面図】



# 新永隆橋新設事業の整備効果アピール資料



## ○事業概要

事業名：旭川圏都市計画道路 新永隆橋新設事業  
 路線名：旭川圏都市計画道路3・3・15 永隆橋通  
 事業箇所：旭川市神楽4条9丁目～宮下通10丁目  
 事業延長：430m  
 幅員：28.5m～49.5m  
 総事業費：3,650百万円  
 事業期間：平成15年～平成22年  
 （北彩都橋・氷点橋開通日：平成23年4月1日）

## ○交通量調査結果

忠別橋・新神楽橋の交通量が軽減されたが、忠別川スクリーン全体では約4,000台/12h増加する

|             | 忠別橋    | 氷点橋    | 新神楽橋   | 計      |
|-------------|--------|--------|--------|--------|
| H22年度調査     | 21,698 | -      | 19,561 | 41,259 |
| H23年度調査     | 17,624 | 10,559 | 17,455 | 45,638 |
| 増減(H23-H22) | -4,074 | 10,559 | -2,106 | 4,379  |

◎**中心市街地部と神楽地区の結びつきを強化しつつ、並行区間の負担を軽減**

## 「整備効果」

- 氷点橋と並行する忠別橋、新神楽橋の**交通量が1割～2割減少**
- 忠別川をスクリーンとする交通量は**約4,000台/12h増加**
- 神楽4条3丁目交差点の**渋滞長が減少**（最大渋滞長：150m→70m）
- 永隆橋通並行区間の**旅行速度が向上**  
 国道237号：整備前20.2km/h→整備後28.3km/h（朝ピーク時、中心市街地部方向）  
 道道新開旭川線：整備前19.4km/h→整備後29.5km/h（夕ピーク時、神楽方向）

## 「その他の事業効果」

- 神楽地区から旭川駅中心市街地部への**徒歩・自転車による所要時間大幅短縮**  
 →歩行者・自転車利用者増加（バス・自動車から徒歩・自転車利用への転換）
- 中心市街地部へのアクセス性向上により、**神楽地区における住宅地での地価上昇**  
 →平成23年度基準地価（平成23年7月）：前年度比2%アップ、住宅地での上昇率全国8位
- 中心市街地勤務のビジネス客により、神楽地区の店舗利用客増加  
 →旭川中心市街地部と神楽地区との**相互利用による地域活性化**に貢献
- 永隆橋通を利用した新規バスルート開設による**利便性の向上、バス運用コスト縮減**

## ＜地域の声（氷点橋通行者のヒアリング結果より）＞

- ・氷点橋開通により、**店の売上が前年比で約2割～3割上昇した。**
- ・バスや自動車を使用せずに**徒歩や自転車で気軽に街中へアクセス可能になり、往来回数が増えた。**
- ・氷点橋は**勾配が緩やか**で、勾配の急な忠別橋のように自転車を押して渡る必要がなくなった。
- ・中心市街地部の警察署・消防署・病院等が近くなり、**まちの安心・安全に繋がっている。**

# 事業前写真

平成13年撮影



撮影:(株)日興ジオテック

平成12年撮影



平成12年撮影



平成13年撮影



# 事業後写真

平成23年撮影



撮影:(株)日興ジオテック

平成23年4月撮影



平成23年4月撮影



平成23年9月撮影



平成23年9月撮影

